

若槻養護学校 基本方針検討懇談会  
第3回発言要旨

1 期 日

- 令和元年10月17日(木) 13:00~15:00

2 内容の概要

○ 受け入れ対象について

- ・東北信地域を広くカバーする上で、東信地域に居住している、発達障がい等に起因する二次障がい、不登校・集団不適応による適応障がいや、うつ等精神疾患の児童生徒にも対応する必要がある。
- ・東信地域からの相談もあるが、隣接する病院への入院や東信地域からの通学はなかなか難しい。
- ・現在は東信地域の医療機関に院内学級は設置されていない。
- ・若槻養護学校の教育課程は、準ずる教育課程である。対象となる児童生徒が、教科学習中心の教育課程にあっているかが判断のポイントになるのではないかと。

○ 教育課程について

- ・確かな学力の定着により、復学・進学・社会自立につなげる支援が核になる。
- ・重度化が進み、病室からの移動が困難なのぞみ部の児童生徒に関しては、ベッドサイドでの多様な学習環境を提供するという方向が重要である。
- ・のぞみ部でのICT機器を活用した学習はとてもよいことではあるが、ICT機器や環境の整備について病院のみでの取組みは難しいので、県として予算化することが必要ではないかと。
- ・二次障がいの児童生徒が短期入院をしながら学習し、地域の学校に戻っていく場所になってくれたらありがたい。
- ・全県で地域格差がないようにするにはどうするかが重要であるし、児童精神科医のフォローをどう受けるかも重要な課題である。
- ・基本方針の中に、自立活動の取組についても盛り込めるとよい。
- ・若槻養護学校だけでなく、復学後も安心して学べる環境を作っていくために原籍校や市町村教育委員会などとも丁寧につなげていく専門性を高めていきたい。
- ・復学に向けては、本人の気持ちをほぐしながら進めていく必要がある。そのためには、地元の子どもと触れ合うことも大事である。
- ・地元の学校に復学できたという事例を積み重ねること、その事例を地元の学校や市町村教育委員会等に紹介していくことが大事である。

○ 県外視察の報告

〈神奈川県立横浜南特別支援学校〉

- ・ICT機器を利用した学習支援、分教室との遠隔授業の実践

〈神奈川県立秦野特別支援学校〉

- ・テレゼンスロボット「OriHime」を活用した学校見学の支援

〈新潟県立吉田特別支援学校〉

- ・転入学児童生徒の復学における医療・原籍校・市町村教育委員会との連携

〈新潟県立柏崎特別支援学校〉

- ・ICT機器を用いた病棟との同時双方向型学習の様子、不登校の児童生徒への通級指導